

# 令和7年度 予算編成方針



奈良県 三宅町

## I 当初予算編成方針

今こそ全職員が一つのチームとなり、  
「変わる」&「変える」予算を

「超少子高齢化・人口減少」が深刻化し、不確実性が高まる昨今において、当町は「消滅可能性自治体」に該当しています。

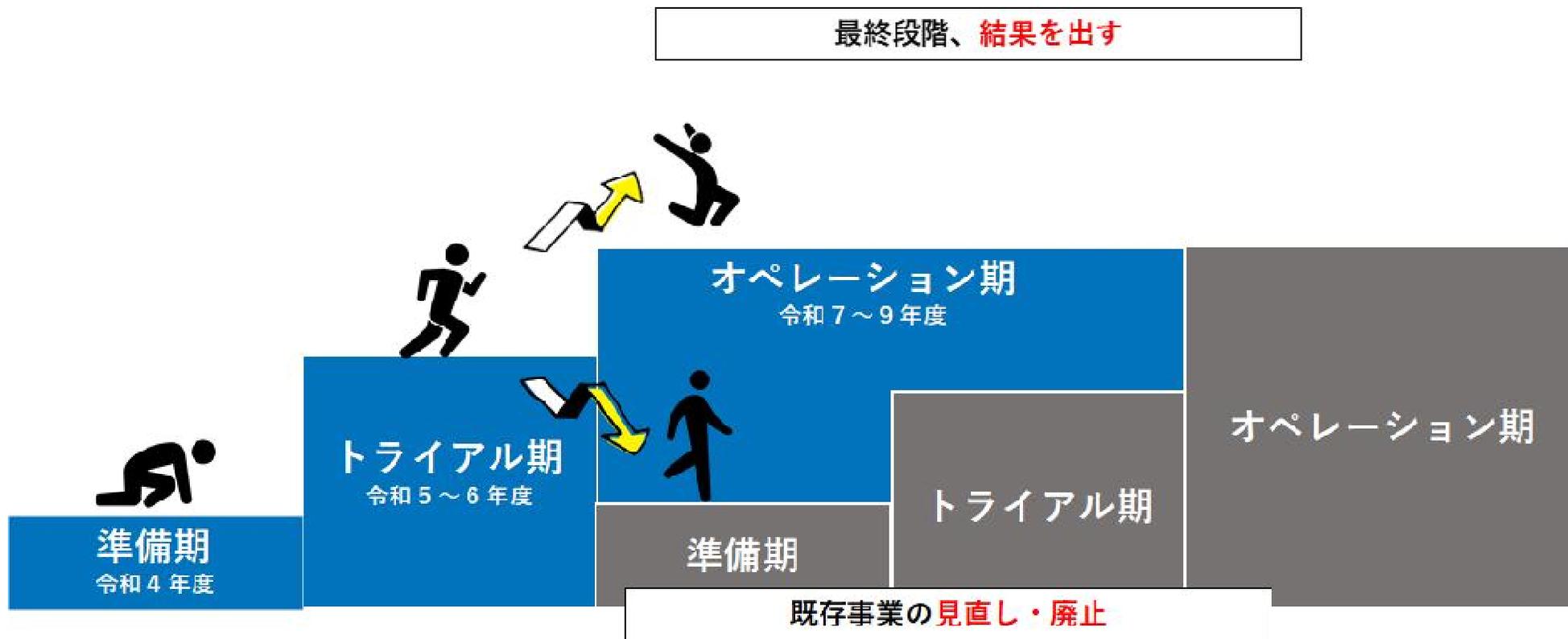
このことや現下の厳しい社会情勢を踏まえると、前例踏襲の予算では変化に即した柔軟な対応ができるとは言えず、10年後を見据えた新たなまちづくりを進めることが必要不可欠です。

本当の豊かさとは何か、幸せとは何か、well-beingとは？

もう一度原点に立ち戻り、三宅町にとって本当に必要なこと、私たちが10年、20年、30年後の三宅町のために今できること、そして果たすべき使命を一人ひとりがしっかりと考え、予算で"見える化"する。

～One for all, All for one～ 令和7年度予算編成に向けた私たちの所信表明です。

# I 令和7年度はオペレーション期（第2期総合戦略期間）



## I 予算編成にあたって

最初から正解を求めるのではなく、小さくはじめて検証を積み重ねる。

- ・ 町民の方々に寄り添った施策の実施
- ・ 未来への積極的な投資
- ・ 分相応な『スモールデザイン』の創出

これらを軸に挑戦と失敗を恐れない文化を対話から生み出し、「誰もが自分らしく幸せに暮らせるまち」をめざして、「まちの共創者」としてのまちづくりに取り組みます。

## I 予算編成のポイント

### 00 固定概念や偏見からの脱却

－アンコンシャスバイアスへの気づき－

### 01 余白をつくる

### 02 AARサイクルの活用

# 01

## 余白をつくる～部局単位で自由裁量制度を導入～

新たに部局単位で枠配分方式を導入し、各担当部局へ予算の裁量権限の一部を移譲します。部局ごとに、町として取り組むべきことを改めて検討し、**既存事業の優先順位**を付け直します。その上で、社会情勢や課題に応じて既存事業の見直し・廃止を行い、各部局の裁量において今ある事業の要否を決定します。

その他、デジタル技術等の更なる活用により、業務量の削減や町民の方々の利便性向上など、**行政DXを強く意識した取り組み**を積極的に進めます。



### 実施策

- ・ 予算における部局長の権限強化
- ・ 業務内容やフローの見直し、業務量の削減
- ・ 人材育成費用の強化や地域おこし協力隊の活用
- ・ デジタル技術の活用による行政サービス、町民の方々の利便性の向上

# 02 PDCAサイクル→AARサイクルの活用へ

現代のVUCA時代においては、能動的かつスピーディーな事業の実施が不可欠です。そこで三宅町では、**AARサイクル**（**Anticipation**（見通し）－**Action**（行動）－**Reflection**（振り返り））を積極的に取り入れ、「**挑戦・修正・改善**」を素早く実践します。

**部局における事業方針や工程、予算管理の徹底**を根幹に、今まで実施している事業の評価を行います。そして、その中で**振り返りを行い、すぐに修正・改善**します。ディスカッションした改善策は組織で蓄積し、今後の挑戦に活かします。



## 実施策

- ・ 総合戦略に即しているか事業内容見直し
- ・ 効率的な事業実施のための事業工程の改善と再構築
- ・ 部局単位での事業実施の方向性の確認
- ・ 事業の組み立ては"小さく始める"